

■ 帝国の視線を通して見る中央アジアー19-20 世紀の地政学的パズルを解き明かす

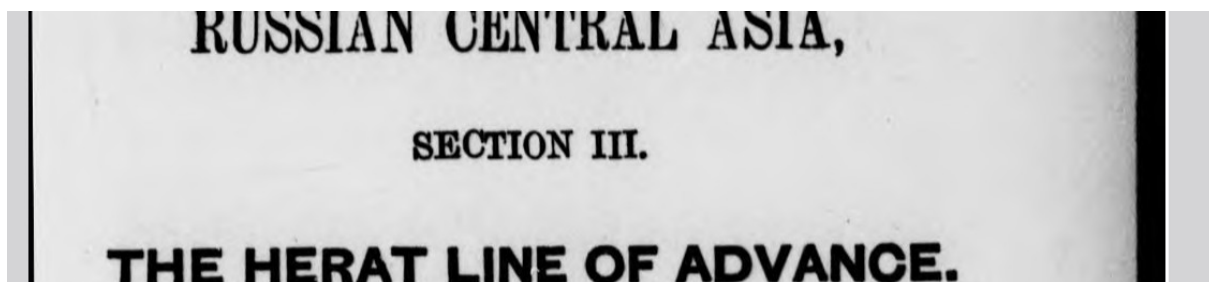
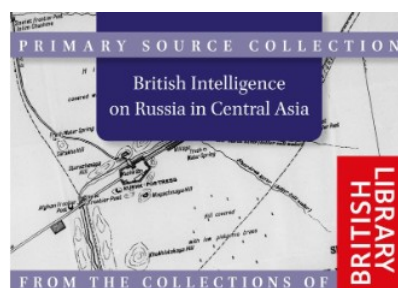
中央アジアにおけるロシアの動向に関する英国の諜報 1865~1949 年 British Intelligence on Russia in Central Asia, c. 1865-1949

ユーラシアの心臓部を巡る帝国の情報戦

中央アジアは、特に 19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて、帝国やイデオロギーの衝突が繰り返された最も争いの激しい地域の一つでした。本コレクションは、イギリスのインド省が収集した、中央アジアの政治・経済・戦略・社会史に関する諜報情報を提供します。資料やファイルは「機密 (Secret)」「極秘 (Confidential)」「公務専用 (For Official Use Only)」として分類されており、1865 年から 1949 年までの期間を対象としています。

今日、旧ソ連の中央アジア諸国における経済資源、地政学、歴史への関心は非常に高まっています。カスピ海から中国西部の国境に至る広大な地域を対象とするカザフスタン、ウズベキスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタンの各国は、国際社会の注目をますます集めています。インド省の「政治・機密部」のアーカイブは、この地域に関する極めて貴重な情報源であり、今回初めてその全内容がオンラインで公開されました。

本コレクションには、極秘・機密扱いの諜報報告書、地図、覚書、ハンドブックが含まれており、国際関係の広範な文脈に関する政策ファイルとともに、地方および地域の政治行政、社会動向、経済インフラに関する詳細な情報を提供します。さらに、インド省軍事部からの印刷資料も収録され、コレクションを補完しています。



大学・学術機関向け

買い切り (Outright Purchase) ・同時アクセス無制限

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの年間管理費 (Annual Hosting Fee) は不要です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社まで別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp



19 世紀、中央アジアは戦争と商業の交差点となり、ヨーロッパとアジアを結ぶ重要な地域でした。この地域は、インドを支配していた大英帝国にとって特に関心の高い場所であり、英国とロシア両帝国の間にある緩衝国の影響力と勢力均衡を巡る競争——「グレート・ゲーム」の舞台となっていました。

英国の中央アジアのハン国（カナート）との政治的関係や利益の管理は、主にロンドンのインド省「政治部」、およびカルカッタ（後にデリー）のインド政府「政治部」によって行われていました。第二次世界大戦まで、この地域に対するイギリスの政策は主にインド省と外務省で策定されていました。軍事諜報は、1878 年以降、インドの参謀本部 Quarter Master General's Department の諜報部門から提供され、後に Intelligence Section of the Military Operations of the General Staff が引き継ぎました。

地理誌、ルートブック（交通路案内）、人物報告、政治分析は、政治・軍事両部門で作成されました。これらの資料は、現地の政治・軍事関係者、旅行者、そして秘密裏に雇われた現地の諜報員が提出した情報をもとに編纂されました。これらの報告書は「公務専用」として印刷され、通常「機密（Secret）」に分類され、インド省の各部門の図書館に保存されていました。

ミッチェルによる翻訳・要約

1870 年代から 1880 年代にかけて、インド省の「政治・機密部」は、ロシアおよび中央アジア問題を極めて重要視していました。そのため、通訳者のロバート・ミッチェルを雇い、彼にロシアの印刷物や新聞記事の翻訳・要約を担当させました。彼が定期的にチェックし、翻訳した新聞・雑誌には、Moscow Gazette / Turkestan Gazette / Journal de St Petersburg / Russian Invalid / St Petersburg Gazette / Golos / Novoye Vremia などが含まれます。

政治・機密覚書

同時期、インド省「政治・機密部」は、急増する情報量に対応するため、政策決定に必要な情報を簡潔にまとめた「Political and Secret Memoranda」を作成し、閣僚に提供するようになりました。インドやロンドンの官僚たちは、国境地帯から届く情報を整理し、次々と交代する政府や閣僚向けの背景資料を作成することが、ほぼ専任の職務となっていました。

覚書は、当時のインド省職員によって、地理的な対象地域に応じた英数字の分類記号を付与されて整理・番号付けされていました。中央アジアに関する覚書は通常「C」シリーズに分類され、この中には、ロシアの意図を巡る政治的な論争や憶測を反映した資料が数多く含まれていました。

ソビエト中央アジアに関する政治・機密ファイル

1907 年の英露協商により、英露間の対立は公式には終結しましたが、中央アジアにおけるロシアの優勢は依然として大英帝国の行政機関にとって関心の的でした。第一次世界大戦とロシア革命の後、両国は再び対峙することになります。二つの大戦の間にソビエト社会主義共和国が成立すると、インドを支配する英国当局は、共産主義や民族主義の思想や工作員がインドの政治に浸透することをますます警戒するようになりました。

この時期、英国の軍事・政治諜報部門の新世代の将校、スパイ、冒険家たちは、中央アジアの共和国、さらには新疆へと大胆な旅を試みました。その中には、公式の任務ではないものも含まれていました。英領インドの諜報員は、1893 年にカシュガル（現在の中国新疆ウイグル自治区）に派遣されていましたが、1911 年にはこの拠点には Consulate-General に格上げされました。カシュガルは、定期的な情報報告、政治日誌、貿易報告を収集する重要な拠点となりました。

■文書のタイプ別に全 7 セクションに整理されたアーカイブ

1. “The Great Game”: Handbooks and Intelligence Reports, 1871–1894
2. Michell's Russian Abstracts and Memoirs, 1872–1883;
3. British Policy Papers and Memoranda, 1865–1898
4. Foreign Office Confidential Printed Correspondence, 1899–1913
5. Handbooks, Military Reports and Personalities, 1902–1929
6. From Anglo-Russian Entente to Revolution and Rebellion: Political and Secret Files, 1903–c. 1924
7. Soviet Central Asia – The Consolidation of Power: Political and Secret Files, c. 1924–1949

